

# 「千と千尋の神隠し」

## 「千と千尋の神隠し」を通して、現代文化を探求しよう

今回私たちは千と千尋の神隠しについて調べました。荻は、ススキそっくりなので、見た人は誰かが荻をススキだと思ってしまう。この物語の主人公は荻野千尋です。この物語はたくさんの登場人物がいます。宮崎監督はなぜこの作品を作ったのか、なぜこの人物を登場させたのでしょうか。その意味を知るために調べていきました。「千と千尋の神隠し」に登場する「もの」にはすべて深い意味が込められています。「すべてのものには意味がある」一見ハッピーエンドの物語にも深いメッセージが込められています。そしてそれらは視ようとしなければ見えてこないのです。ある物語の隠されたメッセージを視ることができた時、私たちは初めてその物語を本当に理解することができるのではないのでしょうか？あなたもこの謎につつまれた物語の不思議を、心で読み取ってみませんか？

### め

「あなたは見ていますか？ 視ていますか？」千尋が迷い込んだ商店街には「め」がたくさん出てきます。

「め」には目と眼があります。目というのとは「もの」の外見を視るもので、眼というものは、「もの」の中身を見通すことができ、「視る」ことができるものだと思います。あなたは、「荻」を「視る眼」を持っていますか。



神様も、商店街で眼を食べることで、「神」として「もの」を見通すことができ、「視る」ことができるものだと思います。あなたは、「荻」を「視る眼」を持っていますか。神様も、商店街で眼を食べることで、「神」として



このラストシーンに

「2匹のガラスの中から愛する少年をいい当てる少女のシーンがありました。これは愛の力です。同じようにこの映画に当てはめると家族愛になります。湯婆婆はあれほど「坊」をかわいがっていたはずなのに、ネズミに変わった「坊」に気づかず、千尋は多くの豚から「父と母」がいらないことに気づきました。今の日本には本当の意味での家族愛が消えてしまっています。その家族愛を取り戻すためにこのシーンを作ったのだと思います。

### トンネルの意味とは

物語の中で千尋たちが通ったトンネルは、モルタル製の赤色でしたが、帰りは灰色で別のものになっていました。これは「あの世界」へ行ったことは夢ではないと、時の流れを示しています。千尋は、「あの世界」へ行って自分の力を知り、勇気もらいました。つまり、あのトンネルは千尋の、友達との別れや転校に対する不満が作り出し、それを乗り越えていくために、いつかは通らなければならぬ道だったのです。また、トンネルの中には別の道もありました。そこはまた違う世界に



「もの」を見通し干渉することのできる力、つまり神通力をつけようとしているのでしよう。皆さんも眼を使ってみませんか。

### 豚

千尋の両親が変えられた「豚」の意味はなんでしょう。豚といえれば鼻が短くキラキラと輝いて、可愛いらしいと思いませんか？

この映画のラストシーンで千尋は、たくさんの豚の中には両親がいないと答えました。このシーンはオトフリート・プロイスラーによるドイツ児童文学の名作『クラバート』を元としています。

つながっていたのでしよう。ひよつとしたら千尋たちが帰って行った世界が、入ったときとは違う世界だったのかもしれない。

### 石像

トンネルの入り口には石像があります。



この石像は、千尋の住んでいる人間の世界と神の世界をつないだり、壁としての境界の役割をはたしています。そして、前後の顔のあつた石像が、ラストシーンではトンネルの入り口に向いた顔が消えているのです。

これは、神々の世界で結ばれていた「契約」がとけたことにより、神から人間の世界へ行くことができると考えられます。このようにこの石像は、この話の始まりと終わりに顕れ、重要な意味を持つ存在だということがわかりました。

### 神様たち

この物語には多くの神様が登場します。河の神様である「春日」さま、「おなま」さまはお面をかぶっています。



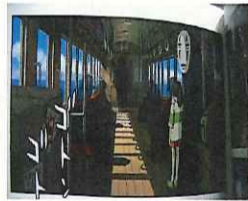
### かまじい

そしてお面を通じて見えないものの存在こそがそこにあることを示すと同時に、神は目に見えない「もの」以上の隠れた存在であることが示されています。

この本の中で、あしながおじさんと呼ばれる人物は、身寄りのない少女に援助し彼女の成長の助けとなっていました。宮崎駿は、千尋が「かまじい」の助けを受けながらさまざまなことをこなしていく姿と重ね合わせることで、千尋のがんばりは周りの人たちの助けに支えられたものだということを示しています。

### 海原電鉄の謎

千尋たちの乗った海原電鉄。駅名を見ていくと、沼のつく駅が三つあります。沼原駅、北沼駅、そして千尋達が降りた沼の底駅と、段々と沼に沈んでいく様子が表されています。沼の底は、光の届かない闇、つまりあの世を表し、更に、電車の乗客の体が透けていることから、これらは亡霊であり、この電車はあの世行きの電車だと結論付けました。



作中ではかまじいは、電車が「最近では行き

放しだ」と言っていました。これは、お盆に先祖の霊を迎える風習の減退を皮肉っているのだと思います。

かまじいは座頭虫という蜘蛛に似た虫が基になっていました。この座頭虫は「あしながおじさん」という本の現代にもなっています。

この本の中で、あしながおじさんと呼ばれる人物は、身寄りのない少女に援助し彼女の成長の助けとなっていました。宮崎駿は、千尋が「かまじい」の助けを受けながらさまざまなことをこなしていく姿と重ね合わせることで、千尋のがんばりは周りの人たちの助けに支えられたものだということを示しています。

### スワタリ

かまじいの下で、スワタリは石炭運びの仕事をしていましたが、私は彼らが、「働く」ということの象徴であると思っています。



スワタリは、確かに持っている感情を押し殺して働き、仕事を失うと消えてしまう存在なのです。そして、この「千と千尋の神隠し」は「働く」物語で

普通の少女である千尋、働くことを知らない千尋に、働くことの厳しさを教える役を、このスワタリは担っているのではないのでしょうか。

### 湯婆婆と銭婆

湯婆婆と銭婆。この二人は同一人物で、人間の持つ母性の二面性を分けて表しています。

対立する双子という設定から読み取ることが出来ます。湯婆婆は、包み込み縛り付けるほど溺愛する母性。銭婆は、見守り自立を見届ける本質的な愛情にさせられた母性を持っています。



人間は、この2つを同時に持ち合わせています。そして、この2つの中で生じる人間の「葛藤」が、湯婆婆、銭婆に描き分けることで表されているのです。

### カオナシ

私たちは、謎に包まれた生物「カオナシ」について調べました。カオナシは、己を持たない、寂しさの塊です。そして、ずっと橋に立っていてみんなに疎外されていたことから、居場所がなく、自分を必要としてくれる人がいない存在だと考えられます。そのため、

それらを求めてさまよって歩いていたのです。これは、現代の若者にも通じる場所があると思います。



また、終盤で銭婆のところに住むことになるところから、たとえ今自分の居場所が見つけられなかったとしても、すべての人に居場所はあるのだということを示したのだと思います。

### カオナシの欲望

カオナシは千尋に対して「千をくれ」「千ほしい」などの言葉を連呼し、土くれを金に変えて千尋の欲心を得ようとしていました。しかし千尋に拒絶されて感情的になり暴れ出してしまいます。その結果、周囲から疎外されてしまい孤立します。

千尋への欲望が最終的に孤立へと導きました。個人的な欲望は、自分を傷つける結果をもたらすのです。宮崎駿はこの作品を通して、カオナシを欲望の固まりにする一方で、観客へのメッセージを送ったのではないのでしょうか。

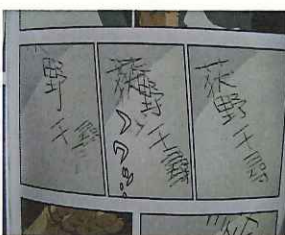
### ハクについて

ハクの姿は、四神相応の一つで西の守り神である、白虎という神が元になったと考えられます。しかし、ハクは虎ではなく龍であり、

青いたてがみから東の守り神、青龍ではないのかと思いました。ハクはもともと青龍であったのに、白龍として白いうろこに閉じ込められ湯婆婆に支配されたのです。西の朝鮮、東の日本を象徴しています。これは1910年の韓国併合時に韓国人々の名前を奪い、日本名に変えさせ支配していた日本と似ています。宮崎駿は湯婆婆の支配を日本の支配と重ねたのかもしれない。

### 千と千尋 なぜ契約をするのか

千尋が湯婆婆と契約を交わすときに「荻」の字の火の部分と犬と書いています。



これは完全な契約を交わさないようにするためにわざと間違えたのではないかと考えられます。この物語ではみんな本名と違い、別の呼び方で呼ばれています。湯婆婆と契約を交わすときに名前を奪われ、強制的に働かされているのです。これはかつて日本が朝鮮の人々の名前を奪い、日本名に変えて支配していた歴史と同じです。つまり、この行為はただ呼び名を変えるというのではなく、相手の人格をうばい完全に支配しようとする方法なのです。